

狂犬病 暴露後予防接種マニュアル

平成 29 年 1 月改正
成田空港検疫所検疫課

動物（哺乳類）に噛まれた、粘膜・傷をなめられた、引っ搔かれた と言う相談をうけたら...

1. 健康相談記録票に記載させる

（1）下記を聞き取る

- ①どこで、いつ受傷したのか
- ②動物の種類
- ③狂犬病の予防接種を定期的に受けていた動物か

（2）傷についての確認

- ①どの部位に、どの程度の受傷か（受傷時の出血の有無、受傷痕・擦過傷の有無等）

参考：接触状況の区分と推奨される暴露後予防（WHO） 暴露後接種の是非を判断する資料

- ②現地でワクチン接種、傷の手当てを受けたか

- ・接種したワクチン名（暴露後狂犬病、破傷風のワクチン接種の有無、回数）
- ・今後の接種スケジュール

2. 厚生労働大臣が指定する『 狂犬病清浄地域 』を確認し、『 狂犬病暴露後対応フロー 』に沿って対応する

注）、農林水産省大臣が指定している狂犬病の清浄地域とは異なる。

3. 『 狂犬病清浄地域 』以外での受傷であれば暴露後予防接種をすすめる

（1）2ビル空港クリニックでの接種（基本は初回接種対応のみ）

- ①ワクチンの在庫の有無、患者受入可否を確認する
- ②支払いについての説明をする
 - ・健康保険証を携帯していない場合は全額負担となる
 - ・17 時以降は時間外診療のため、全額負担となる可能性がある
 - ・旅行保険の加入者は、保険会社に問い合わせることを勧める
- ③帰宅後に受診する医療機関用に紹介状を1 通用意する
 - ・患者紹介連絡票
 - ・健康相談記録票のコピー

注）。事前に医療機関へ連絡をしてから受診するように申し伝える

2 回目以降も継続接種が必要であることを説明する。

- ④リーフット配布する

狂犬病セット（『狂犬病』『破傷風』『 狂犬病 暴露後予防接種対応医療機関一覧 』）

(2) 他、医療機関での接種

①紹介状を1通用意する

- ・患者紹介連絡票
- ・健康相談記録票のコピー

注). 事前に医療機関へ連絡をしてから受診するように申し沿える

②リーフレットを配布する

狂犬病セット (『狂犬病』『破傷風』『 狂犬病 暴露後予防接種対応医療機関一覧 』)

よくある質問と回答（FAQ）

Q1 暴露後予防接種は保険がきくのか？

→原則として日本の健康保険が適用されますが、医療機関によっては健康保険適用外のこともあります

- ・健康保険を使った場合、ワクチン代と診療にかかる費用の3割が自己負担となります。
- ・海外旅行保険が適用される場合もあります
- ・輸入ワクチンの場合は、健康保険適用外になります
- ・詳細は受診する医療機関におたずねください

Q2 2ビルクリニックで暴露後予防接種を受けたらいくらかかるのか？

→時間外診療、破傷風トキソイドの追加、創傷処置など診療内容によって異なります。
詳細は2ビルクリニックでおたずねください

Q3 （〇〇国）で、（〇〇）という動物に咬まれたが、大丈夫か？

《応用編》

- ・当該国の医療機関ではワクチン不要と言われた
- ・ネズミ、リスなどのげっ歯類による咬傷（☆）

→「狂犬病暴露後ワクチン接種対応フローチャート」に沿って説明する。ただし狂犬病が発生していない地域（清浄国）であっても、傷の深さや程度によっては破傷風トキソイドが必要な場合もあるので、医療機関の受診をすすめ、医師と相談するよう説明する

☆《参考：齧歯類の咬傷について》

#1：アメリカ合衆国ではラット咬傷によるヒト狂犬病発症例の報告はない

#2：少数ではあるがアメリカ合衆国で、狂犬病ウイルスを持ったラットは検出されてきた
その数は減少傾向にあったが、理由ははっきりとわからない

#3：ポーランド、イスラエル、タイ、スリナムでラットによる狂犬病のヒト伝播例の報告がある

#4：一般にはラットは狂犬病ウイルスを持っている可能性は低いとされているが、ラットに咬まれて狂犬病になるリスクがないとは言えない

Q4 咬まれてから日数がたっているが大丈夫か？

→早期に開始するのが原則です。本日中に医療機関を受診し接種の相談をしてください

Q5 海外で暴露後接種を受けたが、日本で同じブランドのワクチンを

使用する必要があるのか？

→医療機関の方針によって、使用するワクチンおよび接種方法が異なってくるので、詳しくは接種医療機関でおたずねください

- 日本で認可されている狂犬病ワクチンは一種類で、海外製ワクチンとの互換性（変更して使用してよいという）があるという文書はない
- 海外製（輸入）ワクチンを使用した場合、それにより健康被害が生じた場合の公的な補償がえられないことには注意が必要である（PMDA 法による補償がない）

《参考》NCGM トラベルクリニックでは、保険適応のことも考慮し、国産ワクチンで初回から接種をやり直している

※質問に対して回答に不安がある場合には、医療専門職に相談すること

狂犬病暴露後対応

